



映画のまち調布

# 人生、ここにあり!

SÌ PUÒ FARE



これは、イタリアで始まった本当の“しあわせ革命”



日時： 2015年 5月23日(土)

12:30 開場

13:00～15:00 映画上映

15:10～16:00 講演

会場： たづくり大会議室 12F (調布駅南口徒歩3分)

入場料： 1,000円 (資料代)

お問合せ/お申込み： 調布市福祉作業所等連絡会

[tel&fax] 042-481-3201

[e-mail ] fuku-renraku@tbz.t-com.ne.jp

※当日受付可

主催

調布市福祉作業所等連絡会

企画運営

「人生、ここにあり！in 調布」上映実行委員会

後援

調布市、調布市社会福祉協議会、調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会

国際ソロップチミスト東京-調布ローレル

## [作品紹介]

イタリア本国で、観客動員数40万人を超える、1年以上に及ぶ超ロングランを記録。

2009年イタリア・ゴールデングローブ賞ほか受賞。

1978年制定のバザーリア法により、精神病院が閉鎖されたイタリアの実話を基にした物語。

正義感は強いが異端児扱いされる労働組合員ネットが異動を命じられ行き着いた先は、精神病院から出された元患者たちによる協同組合だった。精神疾患の知識がまったくないネットは、「Si Puo Fare (シプオファーレ) やればできるさ！」を合言葉に、自ら働いてお金を稼ぐことを持ちかける。最初はバラバラだった個性豊かなメンバーが、壁にぶつかりながらも新しい人生をつかんでいく過程をコミカルなタッチで描いた人生賛歌。

原題: Si Puo Fare 2008年/イタリア/111分 配給・宣伝: エスパース・サロウ

監督・脚本: ジュリオ・マンフレドニア

## ～映画「人生、ここにあり！」調布上映会に寄せて～

映画「人生、ここにあり！」の上映会が開催されることを心からお慶び申しあげます。本作品は、精神障害により長期間入院していた患者が、病院を出て社会生活を送る様子を描いたものであり、精神障害のある方が地域で生活する際に立ち塞がる様々な苦労や悩みについて、知識を深める機会を頂戴いたしましたことを感謝申しあげます。

調布市では今年度、国や東京都の指針を踏まえながら、障害のある方へのニーズ調査等をもとに「第4期調布市福祉計画」を策定いたしました。市の実情に応じた福祉サービスの提供体制の確保の方策等を定めた本計画に基づき、誰もが安心して住み続けられるまちづくりを進め、障害のある方が地域で自立した生活をするために必要な支援が提供できるよう、今後も施策の充実に取り組んでまいります。

結びに、上映会を主催いただきました調布市福祉作業所等連絡会の益々のご発展を心よりお祈り申しあげます。



調布市長  
長友貴樹

## [講師紹介]

精神科医 石山淳一

1962年千葉大学医学部卒、同大大学院修了。東京医科歯科大学精神神経科入局、杏林大学医学部講師などを経て、調布市に神経科診療所を開設(昭和47年～平成22年)。

現在、帝京大学客員准教授、東京精神神経科診療所協会監事、日本外来臨床精神医学会常任理事、日本精神保健福祉政策学会常任理事、東京都足立児童相談所嘱託医などをつとめる。

主な著者に『幻覚の基礎と臨床』(共著、医学書院)『薬理学(精神薬理学)』(共著、医学評論社)『心の診察室』(共著、自由企画・出版)『やさしい精神医学講義』(自由企画・出版)などがある。

## [各界からのコメント]

○心の病があっても、人生には涙も笑いも恋愛もいっぱい！ 生きてることのすばらしさが実感できる！

香山リカさん(精神科医)

○精神に障害のある人にも、もちろん喜怒哀楽はあるし、金銭欲や性欲、働く意欲もある。恋愛もある。そういう当たり前のことを、至極当たり前に描いた映画である。

想田和弘さん(映画作家、映画「精神」監督)

○人はみんな個性的。障がいは個性のひとつ。気付いて磨けば、人はどんどん輝くものなんですね。情熱的でユーモアでストレートな表現力、後から感動が込み上げ、今後の社会の在り方にも気づきをくれる素敵なお映画です。

松野明美さん(熊本市議会議員、元マラソン選手)

「人生、ここにあり！」公式HPより

<http://jinsei-koko.com/>

(c) 2008 RIZZOLI FILM

